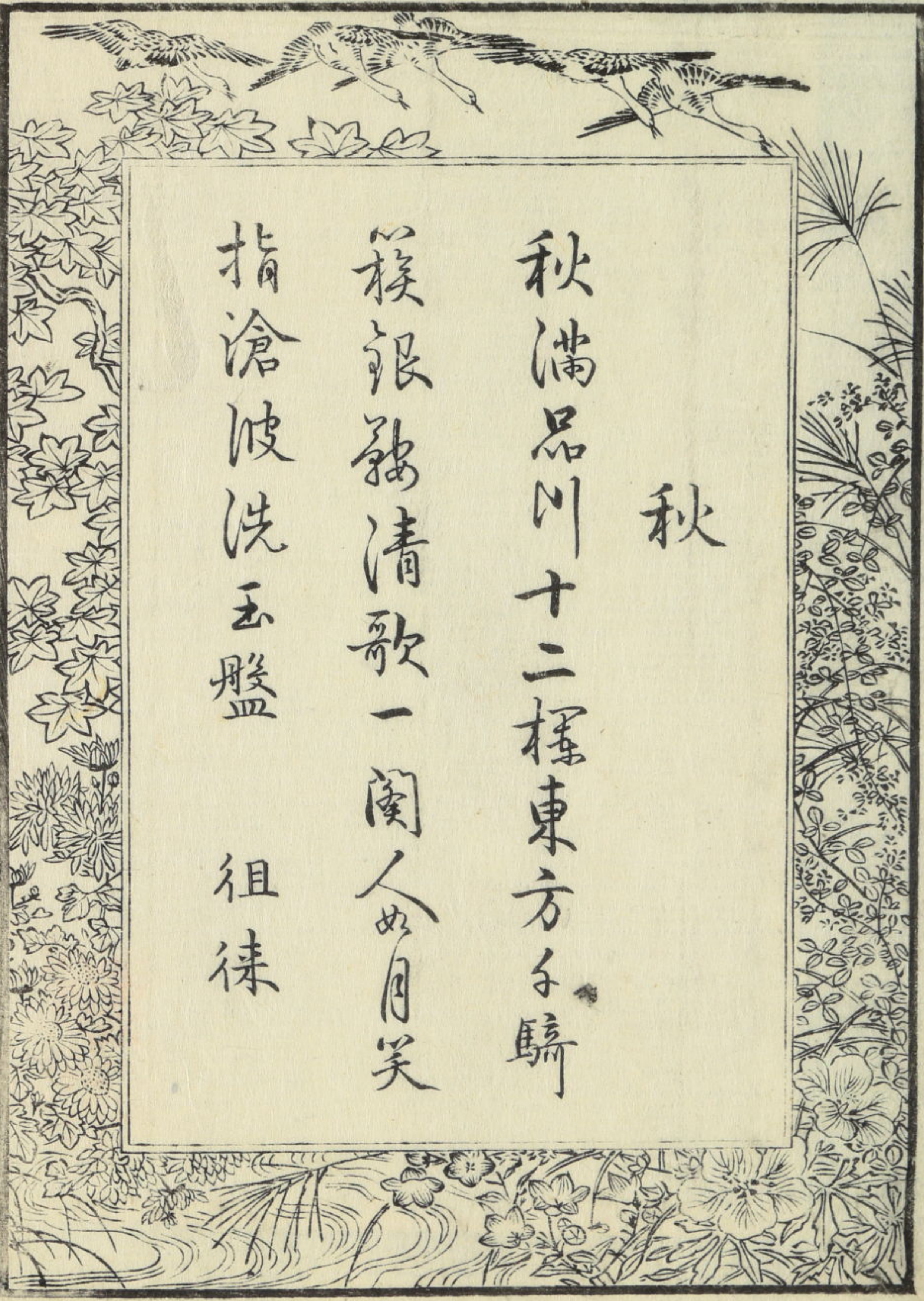


東都家事記

秋

四





秋

秋滿品川十二榎東方子驕

簇銀鉤清歌一闌人如月笑

指滄波洗玉盤 徂徠

江戸歳事記卷之三秋之部

七月



朔日○本所羅漢禪寺施餓鬼今日より晦日迄修行毎日羅漢供養 盂蘭盆経诵读

十六日廿八日 晦日大せうき修行川せうきハ今ナ修行中田方の厄俗群多以

○高月ハ諸寺院水陸會修りありて悉く記し漢文ありま一二を挙ぐ

○水道橋ニ傍稻荷社より夜祭の作業切多とせ八月二の午の件あり

○同是不動より南中延八幡宮靈宝虫拂義説法源頼義船長延八幡文神像貳貳家

船長ハ表の人の状あり

二日○煤拂虫拂今日より十三日までの間晴天と擇ひ屋中の煤と拂ひ又新書衣類

並物あつ虫拂と云ふ高家あつ家の茶と幕と張りて高ひりのをさうはる院乃交難

神社の玉宝曝涼と目限大く定り宵て肉陣とゆうす

四日○本所回向院より子住小柄系の別院ふ於て大施餓鬼修行

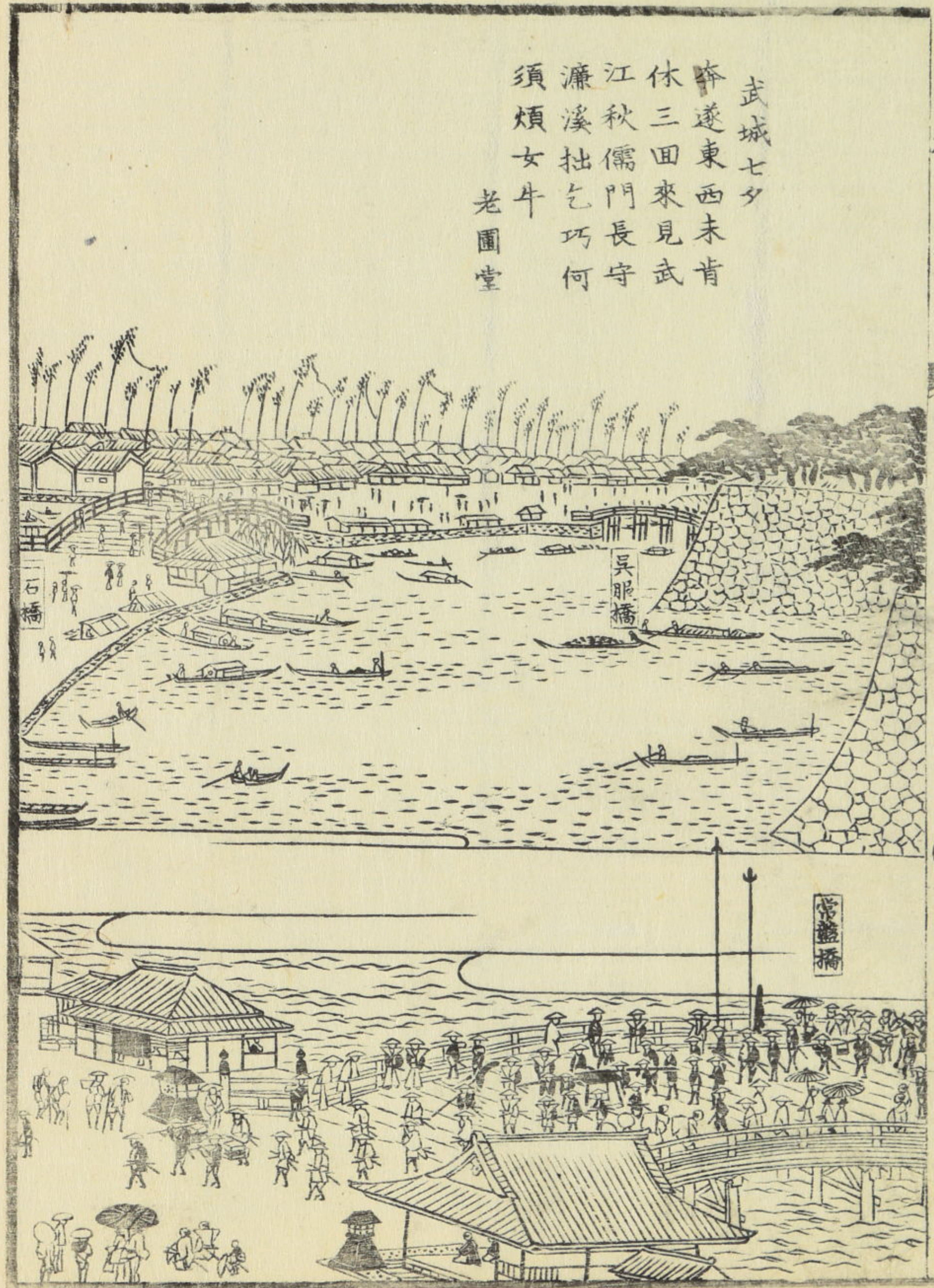
刑死の族迷魂湯脱の夢よりふととあり

六日○今朝未明より毎都屋上と短冊竹をきき響く市中ハ工とそいてツクハ一の

修り物と云ふハ井とも又高く出いて人の見りのと云ふ夕を年のうちハ一

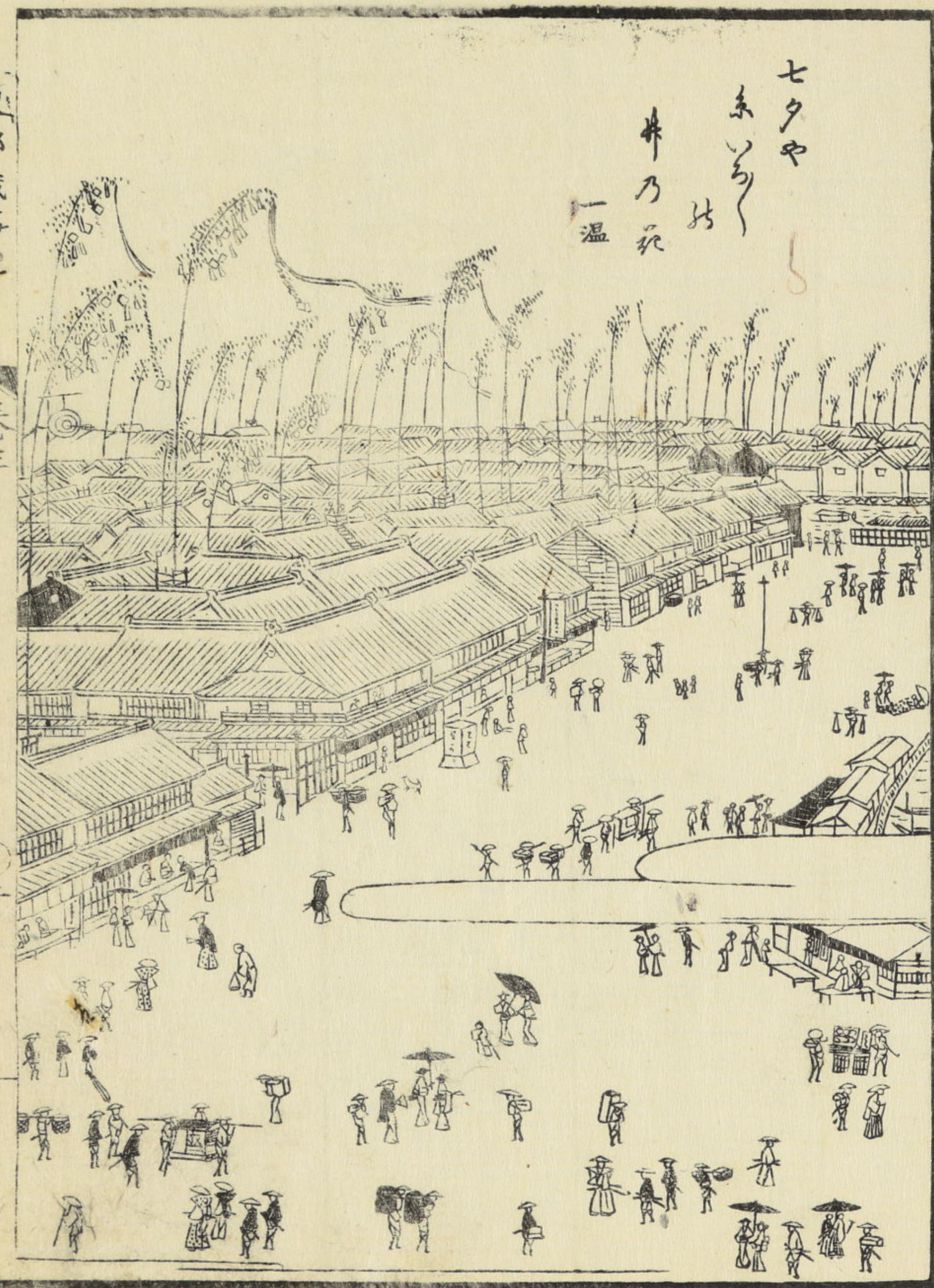
七日○七夕祈祝後諸侯白帷子あて祈礼今新書徳信物とつて祈て二里と

武城七夕
奔遂東西未肯
休三回來見武
江秋儒門長守
濂溪拙乞巧何
須煩女牛
老圃堂



七夕や

糸の
井乃
一温



登以○古東遊女者七夕祭を以て後や江戸の夏の流し隈は并

○江戸天満宮七夕和分連会。同神宝出掛今日より九日迄あり
隅りより神化と云ふは其の天女の御太刀菅仲河主筆筆一と云物。法性坊寺主筆
太閤秀吉公持物經集の又筆も持物の神宝あり

○七夕立花會 東本願寺 西本願寺 各教親の立花砂の海あり
地 法人見物と云々

永劫あふ舞又六南堂池の坊の立花も半女と云向るなり江戸もあれあふふ

○沙羅木本願寺中津本寺什宝出掛本寺佐別度佐時長右衛門殿遠物被せしむ

○沙羅報恩寺什宝出掛 親鸞上人回國の發立遠あり

○池上本門寺什宝出掛 日蓮上人筆法花經同筆遺物同筆同筆清真
貞宗太刀を余移すの異宝ありと云々

○中山法花經寺什宝出掛 宗祖上人筆曼荼羅并消易上人の持物との外
法什宝と被せしむ江戸より法人あり

○吉岡弘法寺什宝 同而総寧寺什宝出掛○難同谷法時寺什宝出掛
の初焼死溺死の亡魂追薦の爲より祈り

○要沢村淨土寺九品佛奈○本町回向院大施威鬼
の曆二年丁酉四月十八日十九日迄大

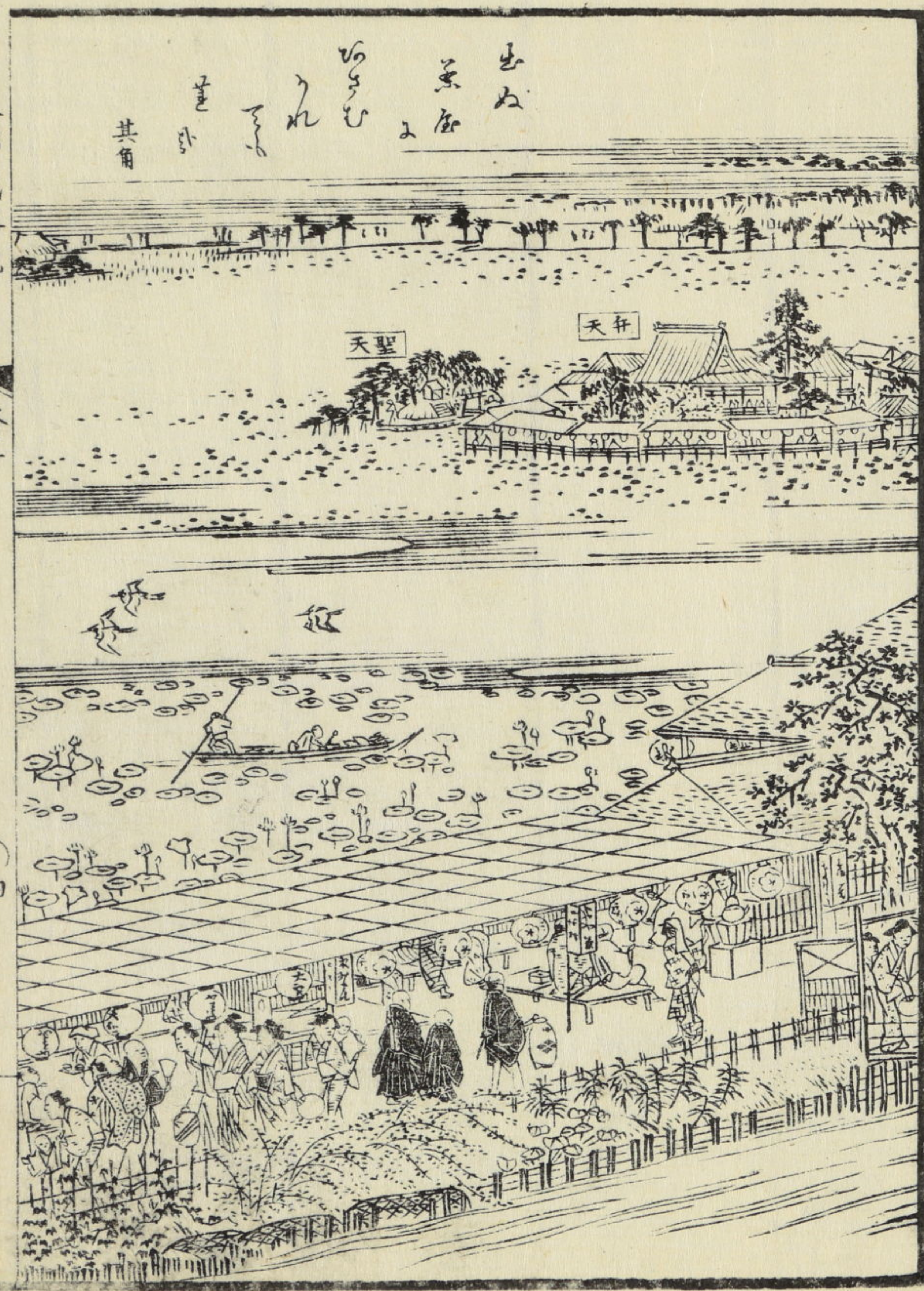
八日○同寺少て佛餉施入の檀主現當両益の爲より法事修りあり

九日○觀音寺日系今明日 世儀里方六子日ともいふこの日法つれハ
あの日較又向へといふ



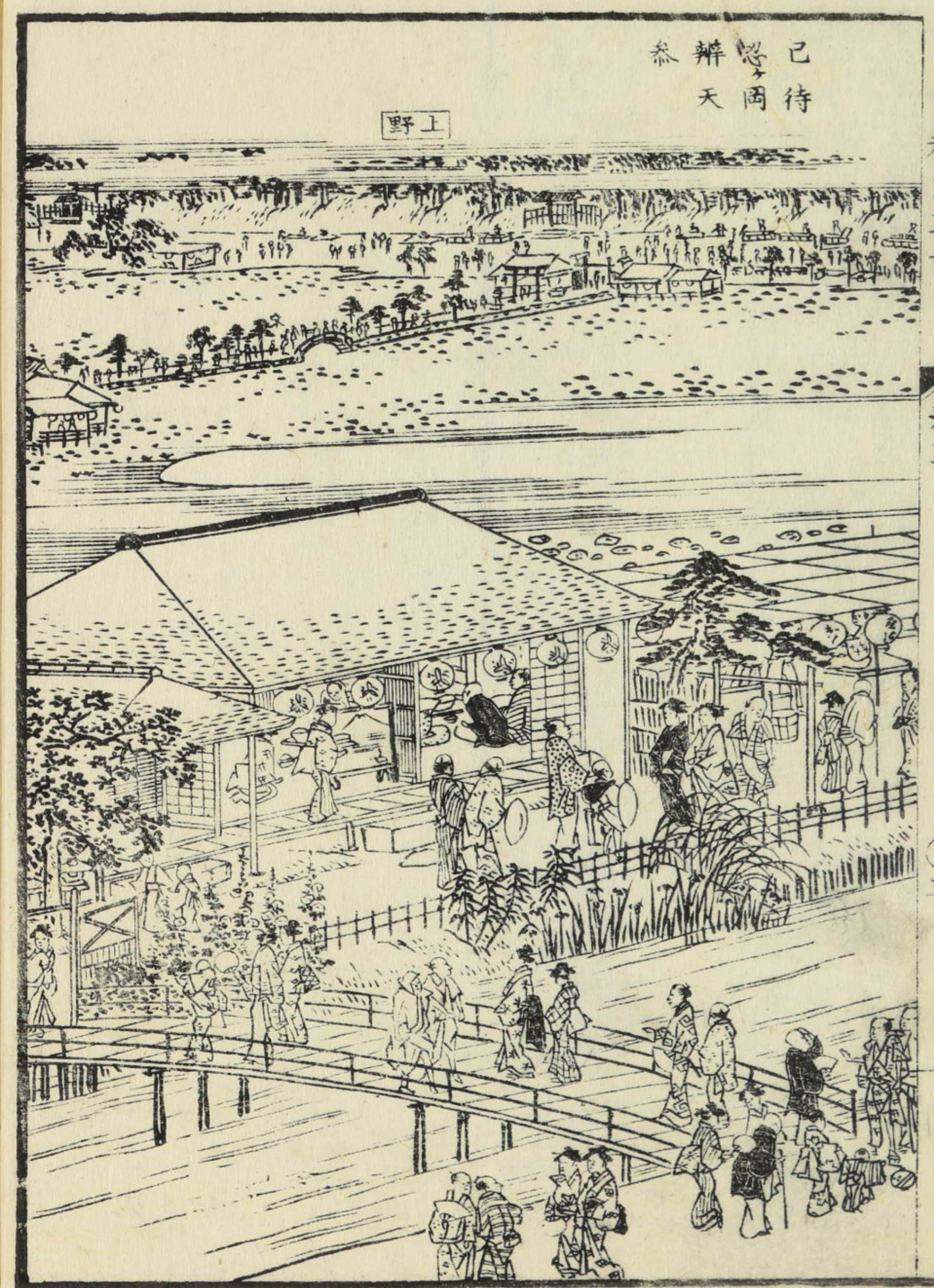
其角

其角
天聖
天弁



己待
天固
辨

野上



其角

法華寺

あ日の間、法華寺の老翁引もきく境内、本堂の傍に赤き蜀黍と南の端人求て雷難除の事、今日日本堂にて修法中、通衆の者多し

本町回向院一言観音

本浪町四丁目 日本橋 白木屋 呉服店 三田魚籃 津田

田谷南寺町汐干観音

青山泰平観音 梅窓院 麹町八丁目桐蔭院

牛込神楽坂上藤掛観音

大塚護玉寺 駒込大観音 寺 光源

○十日の秋例年あふくはあなり
何事も赤き蜀黍と南の端人求て雷難除の事、今日日本堂にて修法中、通衆の者多し

十日○草市

又草市より人精更なり、魂棚飾の市あり、何事も外の刻より始り、移りの儀、物産、南の端人求て雷難除の事、今日日本堂にて修法中、通衆の者多し

十二日○同市立川

同市立川より人精更なり、魂棚飾の市あり、何事も外の刻より始り、移りの儀、物産、南の端人求て雷難除の事、今日日本堂にて修法中、通衆の者多し

同市立川より人精更なり、魂棚飾の市あり、何事も外の刻より始り、移りの儀、物産、南の端人求て雷難除の事、今日日本堂にて修法中、通衆の者多し

○精霊祭

今日より十日あふくはあなり、何事も外の刻より始り、移りの儀、物産、南の端人求て雷難除の事、今日日本堂にて修法中、通衆の者多し

焼く十六日の送火とて又麻うとてこの所を俗に中より人精更なり、魂棚飾の市あり、何事も外の刻より始り、移りの儀、物産、南の端人求て雷難除の事、今日日本堂にて修法中、通衆の者多し

七月十三日

壬子権現

社祭禮

古歌を以て

あふ小模一

出せり



其二



鶴岡放生會
職人歌合

田樂

うら

うら

中門は乃

うら

うら

あき

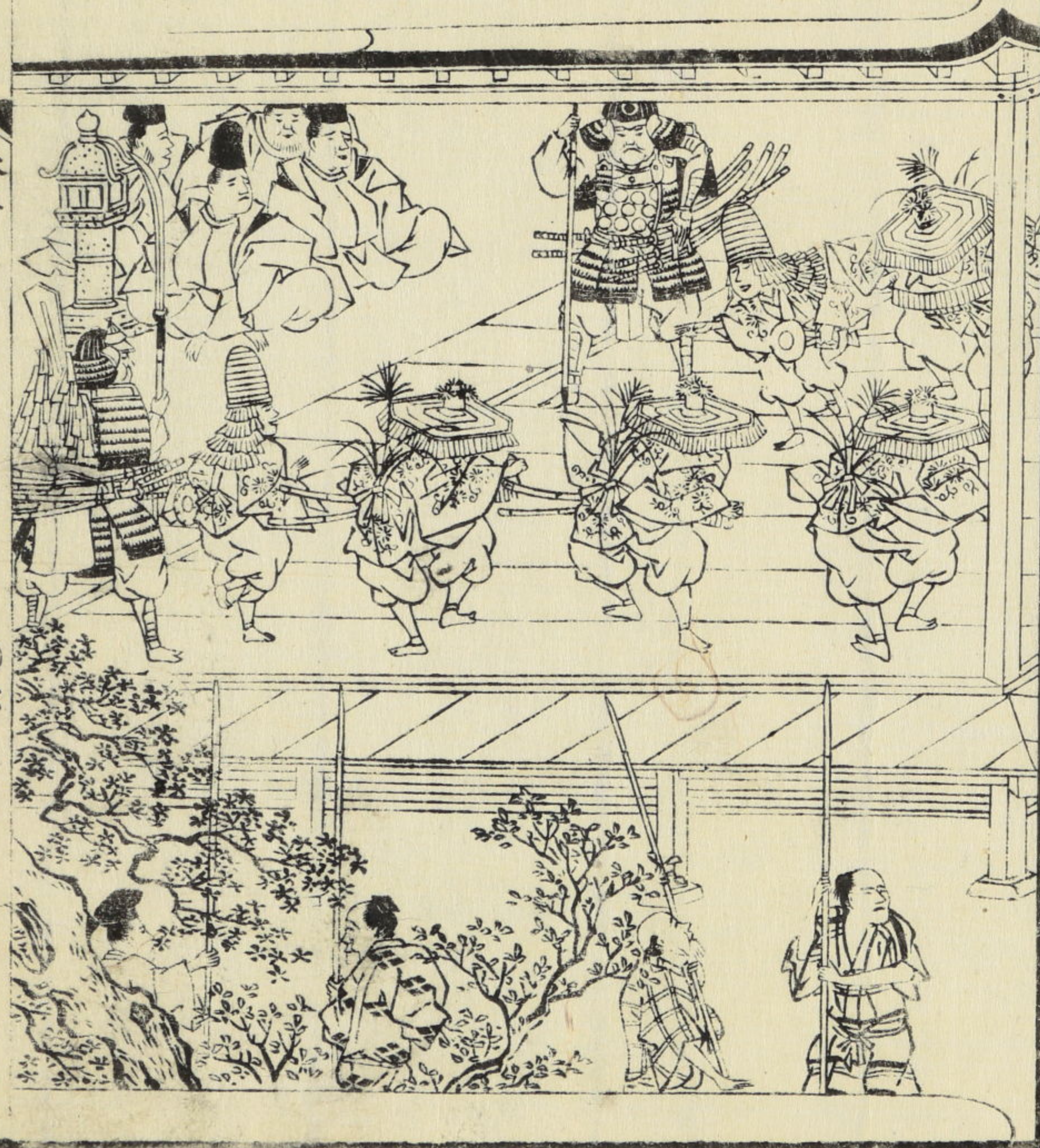
月

うら

或云

後普光園

攝政





盆市

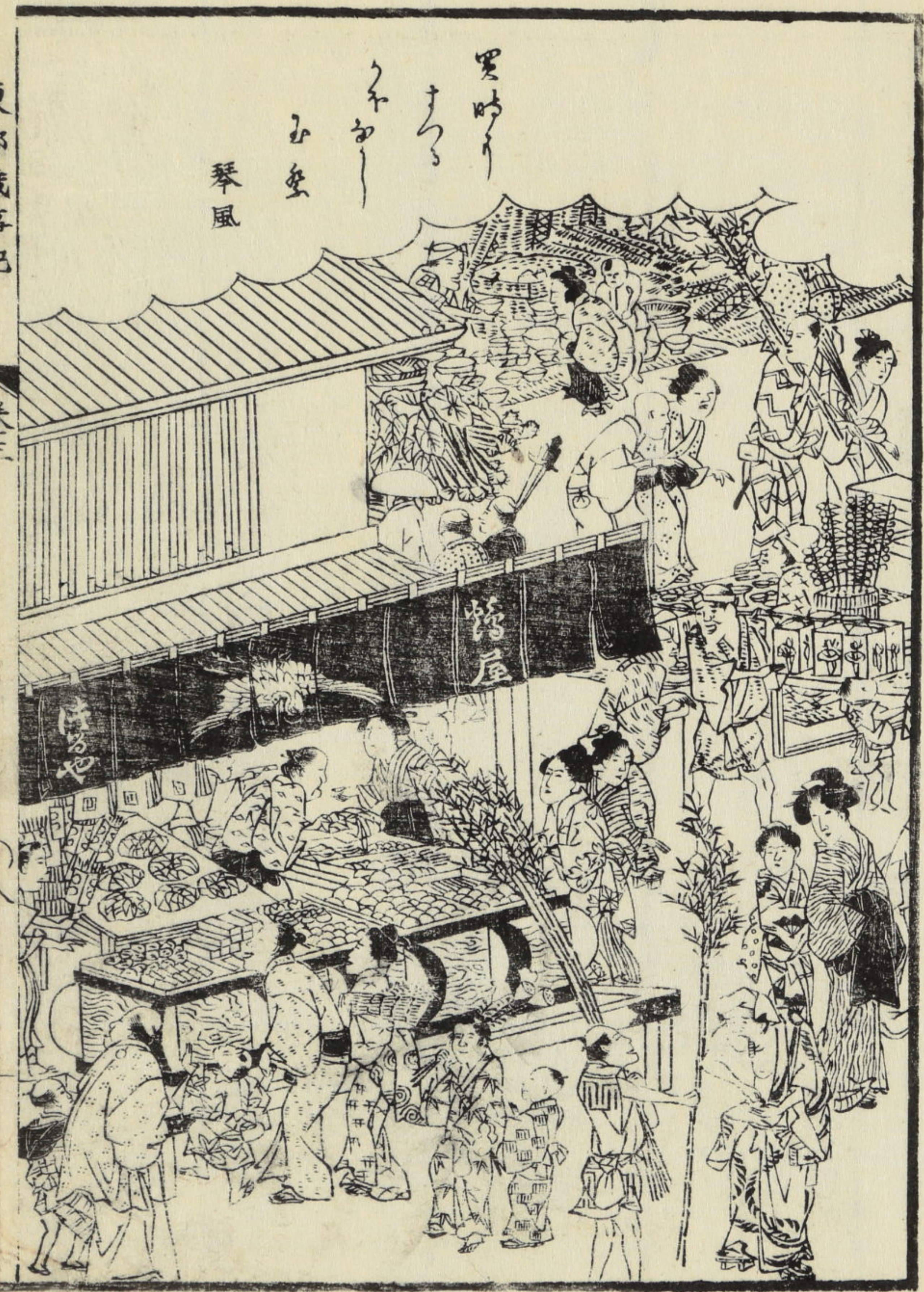
多々

名々

何々

童々

卓袋



黒時

す

く

玉

琴風

盆中往来
の圖

五元集

桐經より
よきあられ
し後の袖
とるひ移り
の模化局
の有き價
宝珠と洗
せりふを
おりの
衣ある然
いふや
むき
つ



盆中ハ
秋まき
の
灯籠
ヤ
龍電

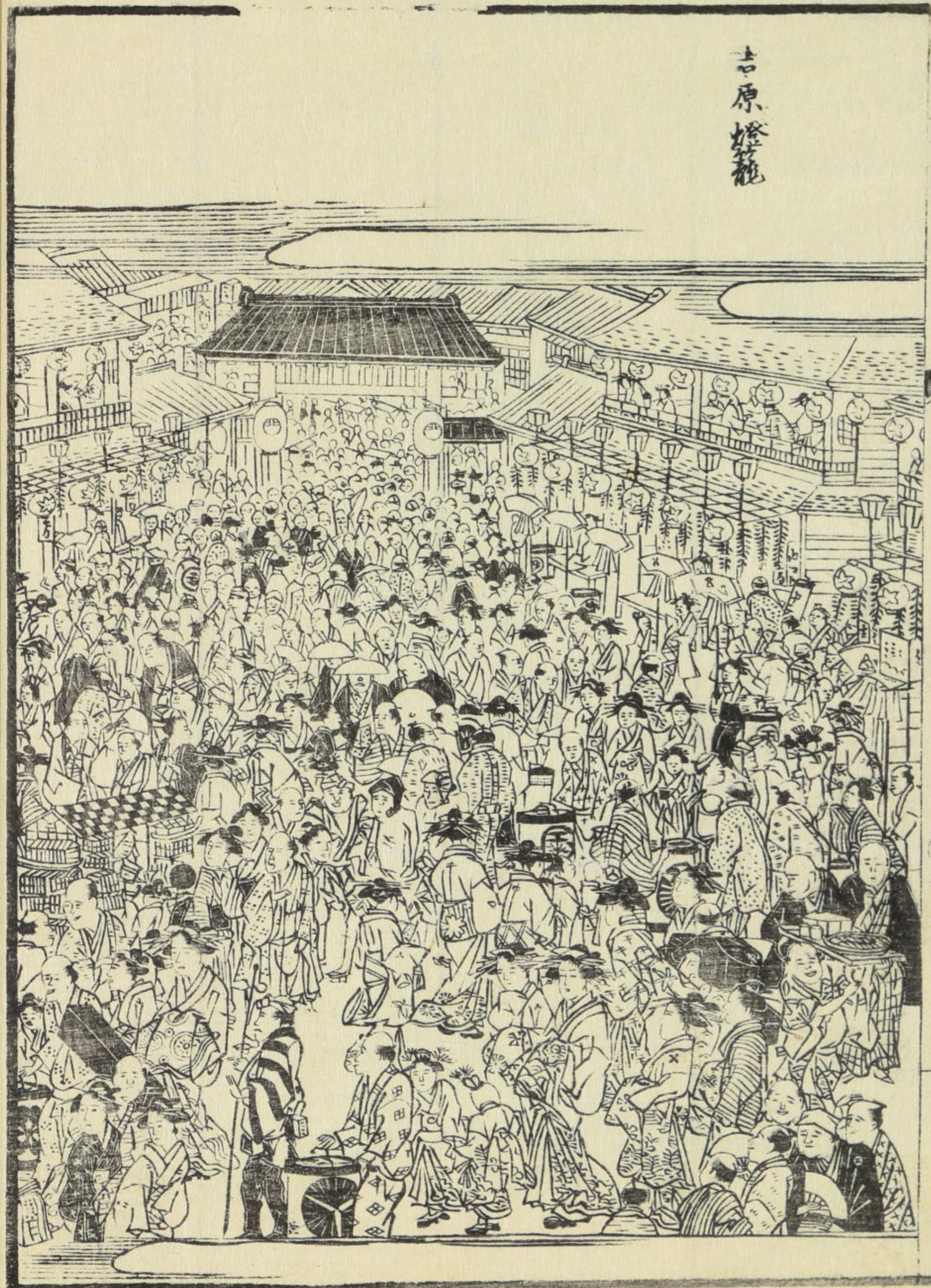


執事○小柄原強主祭角力ありより前板の事不足なり
いふに社乃所重

湯嶋雲寺什寶坐拂
名筆佛画兩界まんどら
そ外掛おち

京都府志

吉原燈籠



曲阪長堤

起晚埃

無人不道

觀燈回

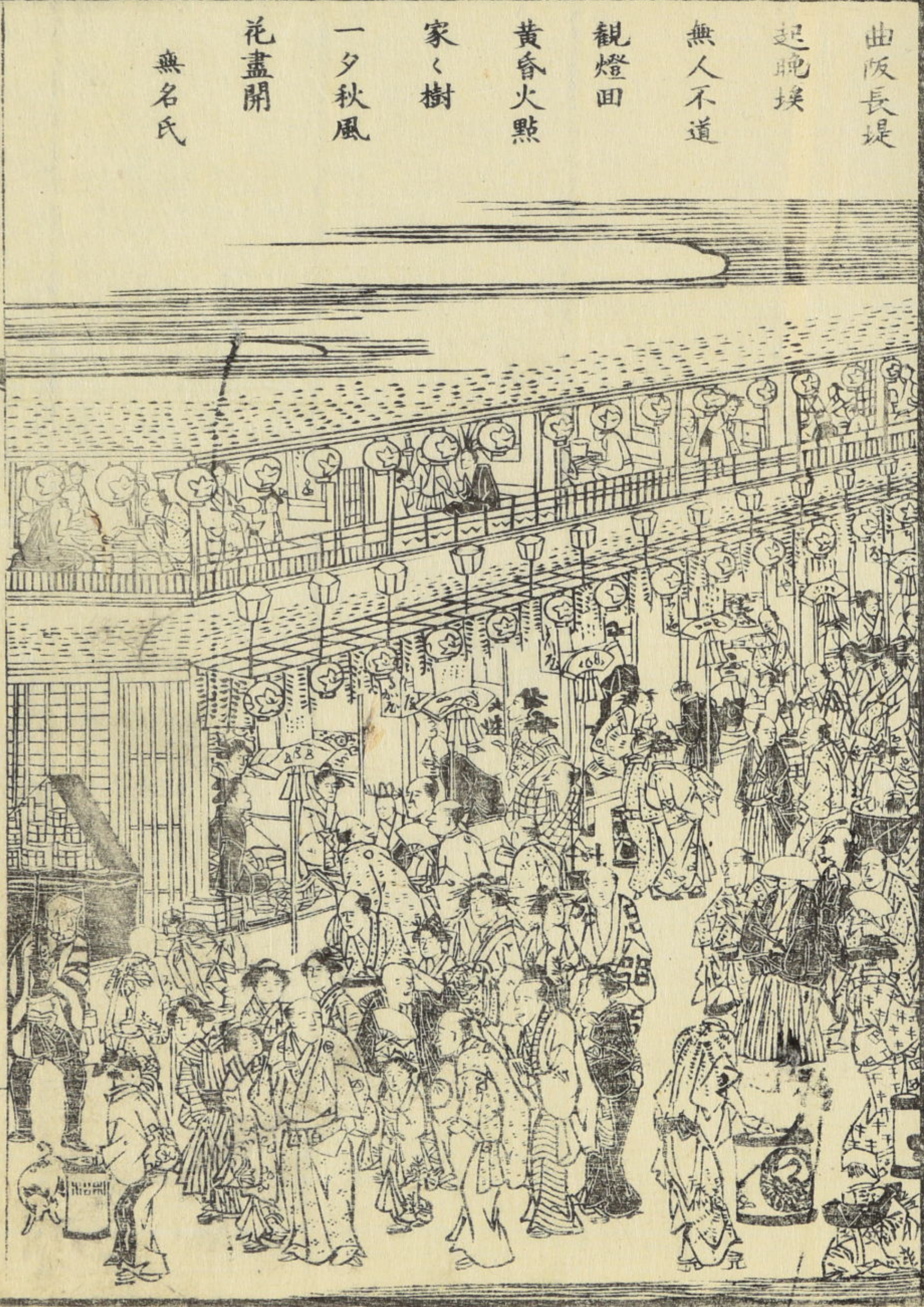
黃昏火點

家々樹

一夕秋風

花盡開

無名氏



陳那幾事記

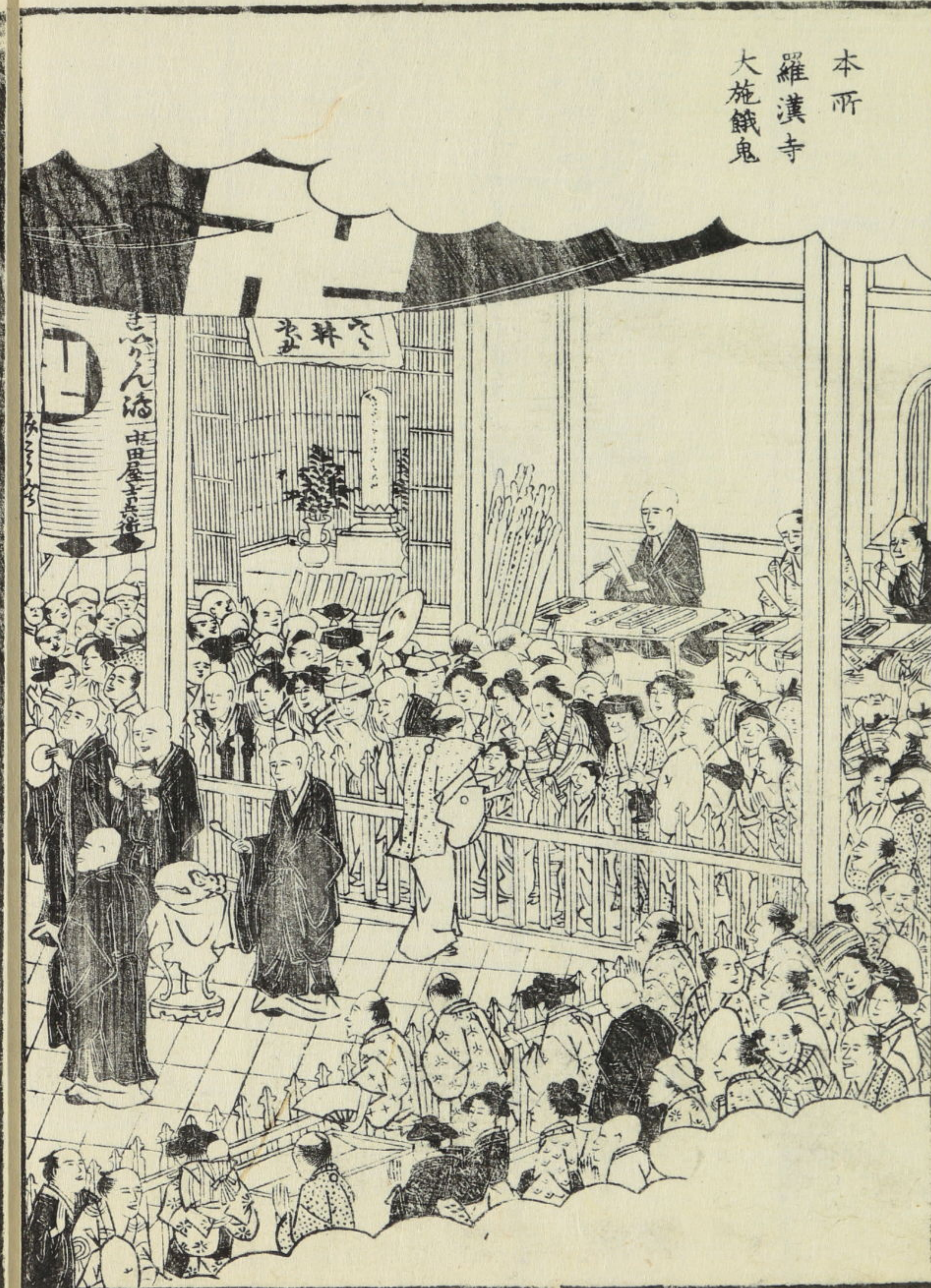
卷三

〇七

ちよ
あはれ
帆
せうき
平砂



本所
羅漢寺
大施餓鬼



くへ上人二日の宮施威鬼をいひかひしそを我今迄よりぬき女等ととりくゑ
るゑと免るゑとぬき若奈某へ書跡ける文あり。血の池の帷ふ本茂我本町の南
多羽屋某へ妻産産ふく死しうう同し上人の惡化やうと成候しこの帷子成産せり
といふ四月二日の条しふなり

○吉東京町二丁目旭如來開帳 旭如來をまつる事候を
多治おわ

十七日○本々六丁目此福寺施威鬼

十八日○増上寺開山忌 開山園養上人聖徳大和尚の忌よりて法延を後ら
るゑり今日己刻大澤と撞き園山共々を至末も乃衆俗
方より列と接へく本寺へ出仕せし程なり開山上人の本徳を四方衆に
示さるゑりてく本寺へ遷しをて途中天蓋をうき 散花あり方丈へ歸り年々
以者童子布衣素袍退紅白張ふの徒者具せりて多きなりを樂儀經りてふ
多終りて午刻退散ありふの時多終の諸人へ十念と極らる今日も終集まふ
おと駭し法會終りてよりふとをてに信人樓より登るゑりてふなり

○堀の内妙法寺法經子部廿七日迄修り かの宮ををの老より毎
ふと運ふ

○浅草雷門前寺修りて親世を縁起具宝出掛ありて修りてふなり
わたり供養月
八日一曜

十九日○青山圓閣寺逆峯の神事宋燈大護摩修り

廿日○駒込吉祥寺施威鬼修り ○牛込榎町海松寺開山忌

廿二日○湯島圓通寺施威鬼修り

廿三日○谷中三修法修り 世俗にぞんず
かんといふ 施威鬼廿九日迄修り 多治

○浅草日輪寺より一遍上人の忌日法修り八月をれもえりてふなり
○下総小古間村法修り多れ都より信人あり

廿四日○小石川戸崎町修りて地蔵祭 ○下谷光孝寺施威鬼修り
廿五日○浅草本法寺修りて地蔵祭 ○戸谷光孝寺施威鬼修り

廿六日○廿六日修り 記せる地々をて群集をりて難く有りて修り
いふ所と今和整親の第一といはれ府の良法兼日より修りてふなり
芝高輪品川 品川高輪の法修り小宴と儲りて修りてふなり
の女妓幫蘭女伶の属群とてふの地小集りて修りてふなり
うすく修り 築地海子 深川洲崎 湯島天満宮境内 飯田町九段坂
日暮里法修り 日向不動寺境内 西浦小向て月と看るふ修りあり
天和二年編輯の案のひよりて田安門外とて修りてふなり
ふよりて月の出と修りてふなりとて今七月のふよりて正月廿六日を修りてふなり
とて修りてふなり

○稲付むし 静養寺太田道灌入道の木像開帳

○青山若光寺大施威鬼修り ○板橋日曜寺愛染明王開帳

○浅草日輪寺より一遍上人の忌日法修り八月をれもえりてふなり

○下総小古間村法修り多れ都より信人あり

○浅草本法寺修りて地蔵祭 ○戸谷光孝寺施威鬼修り

○浅草日輪寺より一遍上人の忌日法修り八月をれもえりてふなり

○下総小古間村法修り多れ都より信人あり

○浅草本法寺修りて地蔵祭 ○戸谷光孝寺施威鬼修り

○浅草日輪寺より一遍上人の忌日法修り八月をれもえりてふなり

○下総小古間村法修り多れ都より信人あり

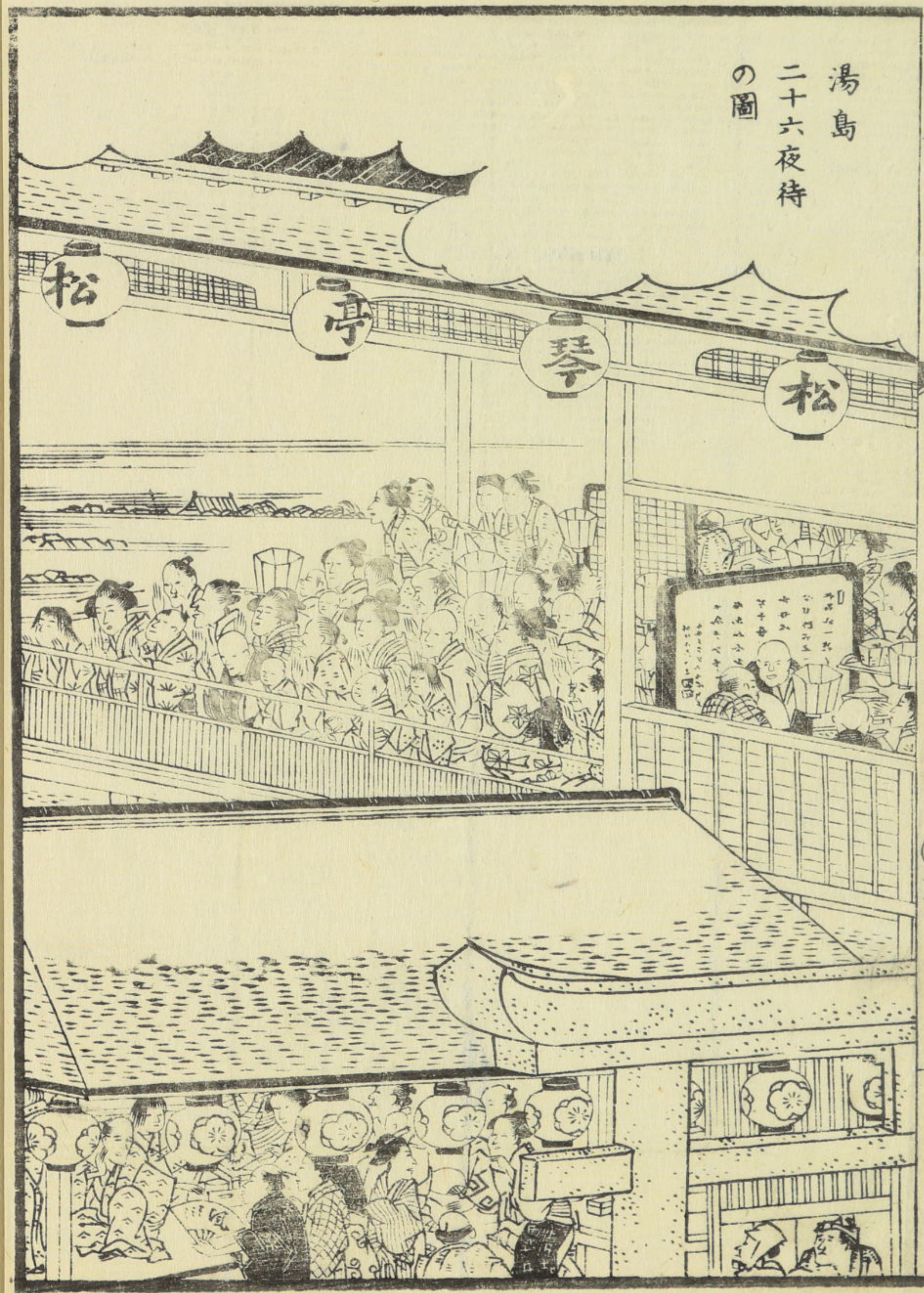
○浅草本法寺修りて地蔵祭 ○戸谷光孝寺施威鬼修り

○浅草日輪寺より一遍上人の忌日法修り八月をれもえりてふなり

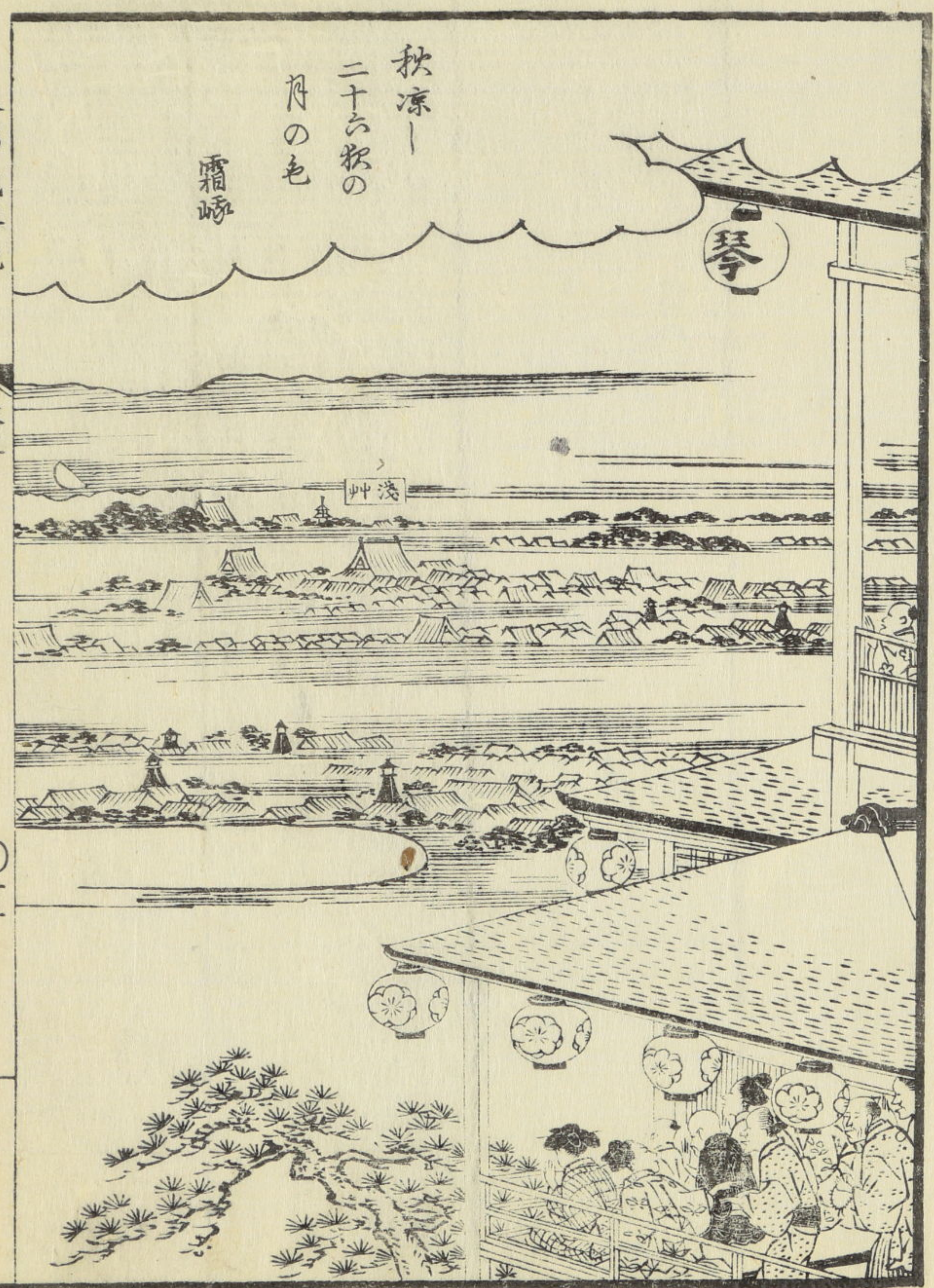
○下総小古間村法修り多れ都より信人あり

○浅草本法寺修りて地蔵祭 ○戸谷光孝寺施威鬼修り

湯島
二十六夜待
の圖



秋涼
二十六夜
の月の色
霜降



六十一

精進園

寺島村百花園
秋の七艸



後拾遺集

我常

秋の

くさ

む見

人

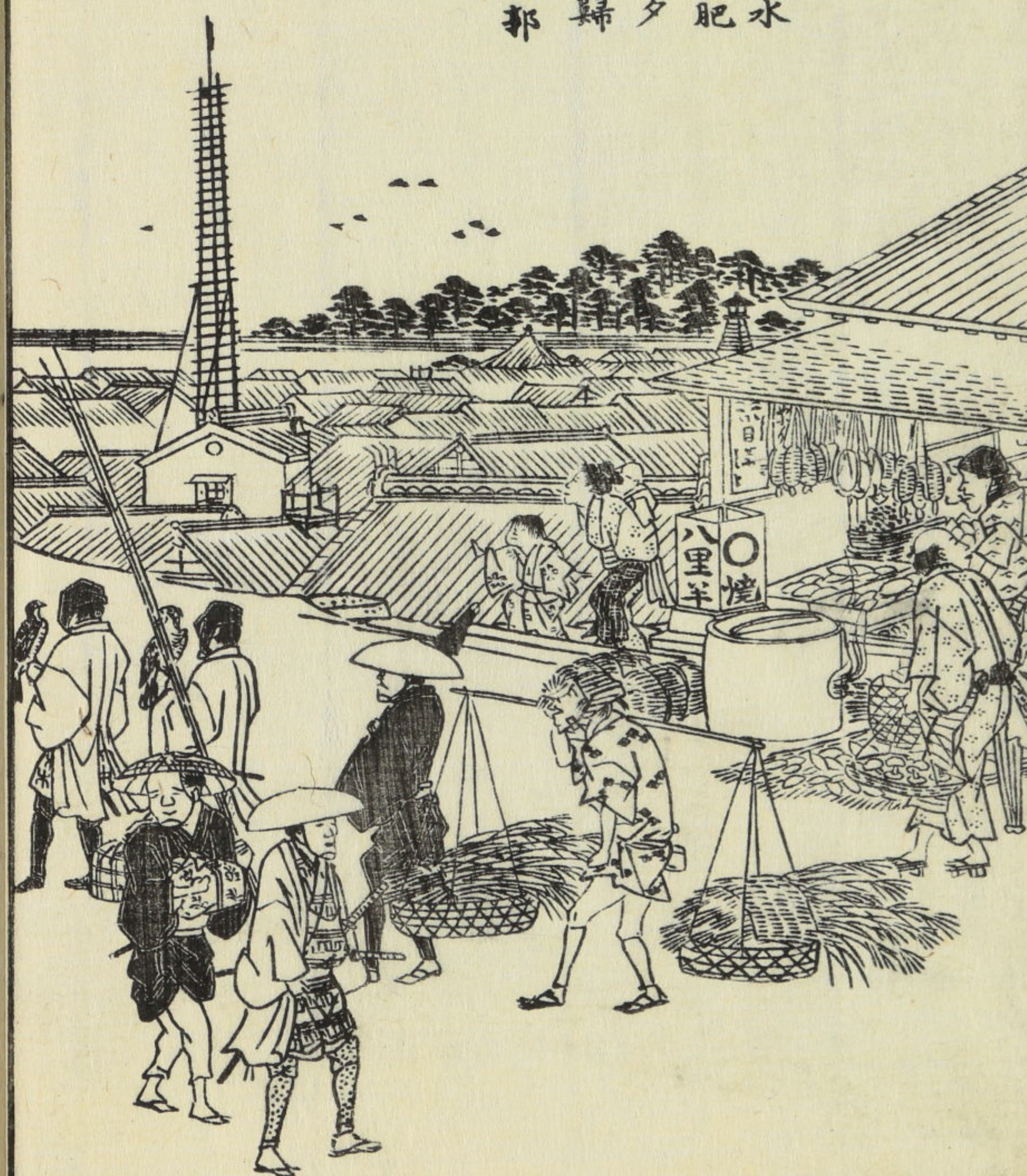
く

関白前
左大臣



東都物語

江近通溝水
城頭魚自肥
秋風吹一夕
處處釣鱸歸
南郭

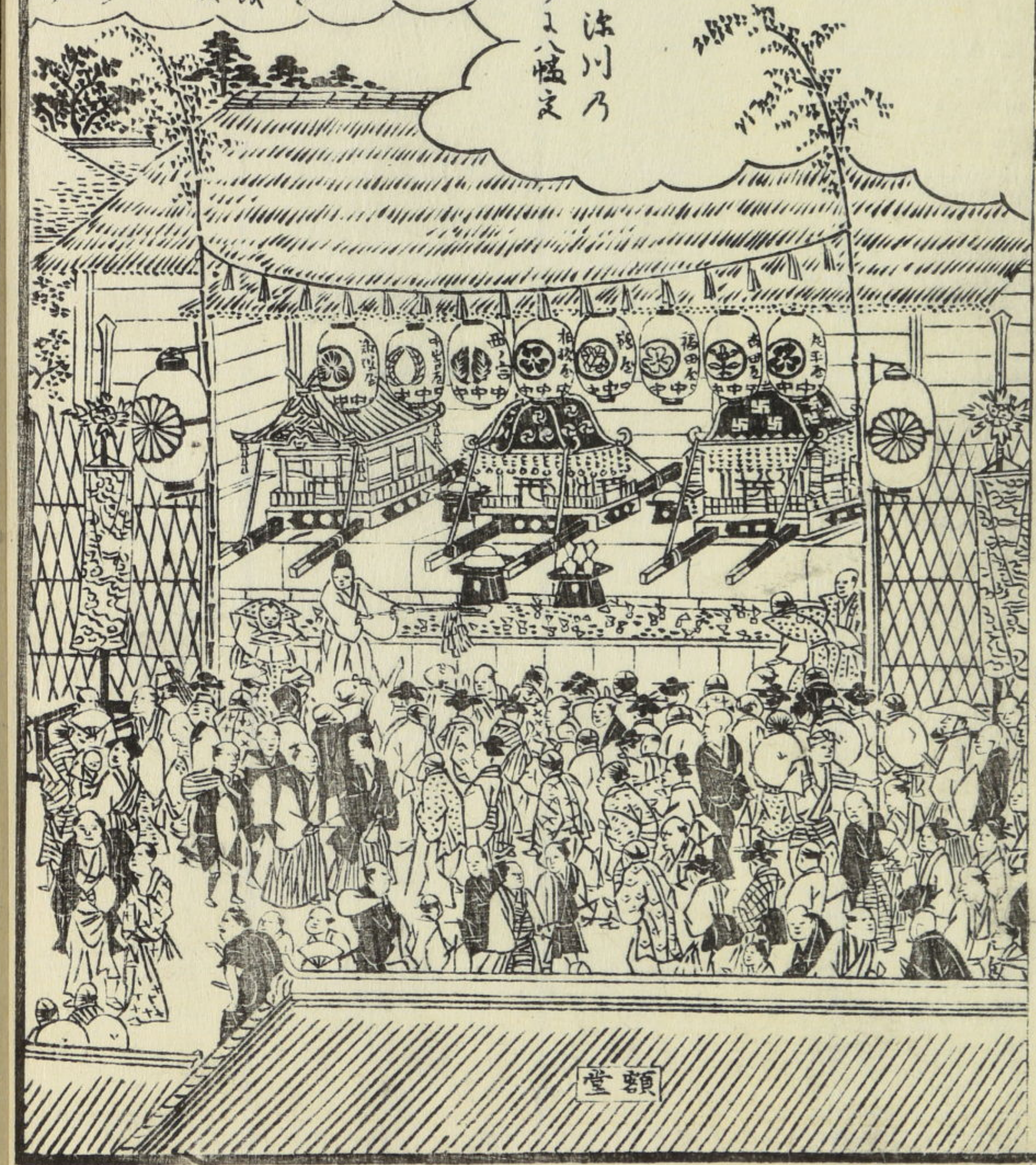


東都職事記

八月十五日
富賀岡八幡宮
祭禮

視吾堂集

武城のひんうー法川乃
流き清きわろるゝ極定
いそれおつゝま
ふのおおのう
永代清きわろるゝ
八十の致系持
く入てりるゝ入
中又遠く江城以
のやめ、洛陽令致
たりをく満るゝ
うふ船、涙のゝり



堂額

りとうゝゝゝゝゝ
ゆゝ男山のふりけ
うゝひく和光まふ
ねゝゝれゆゝや
たゝゝれ
霊心なり
ぞ

若清あ
きく
流き
ふ路ゝ
む
永き代乃
志は
名
惟足



東都職事記

卷三

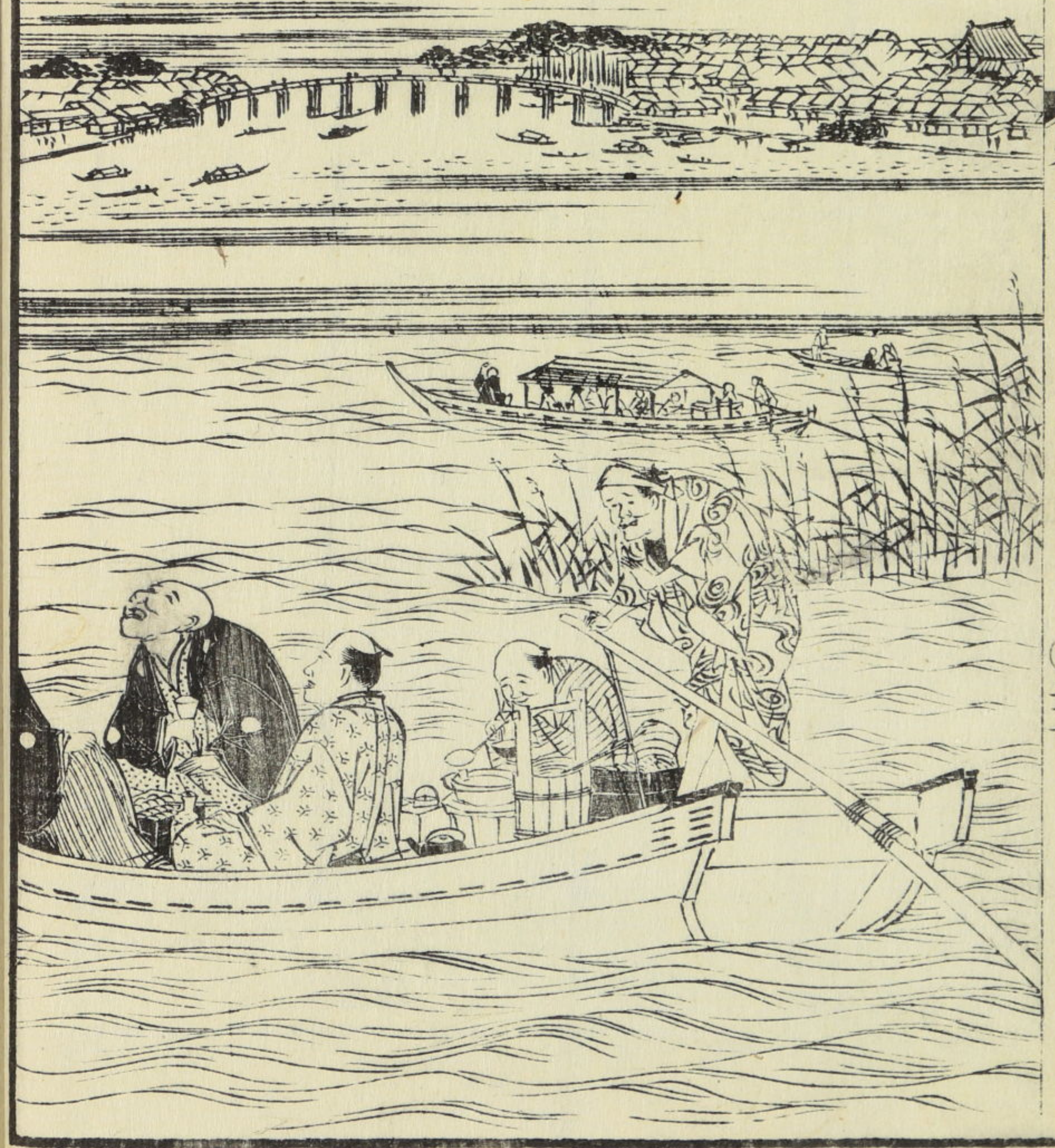
三十一

東都物語

良夜墨水
看月

墨水連天濶秋
風二總開潮平
明月湧山近白
雲來病癩人情
變歸心酒態哀
窮愁書未就短
髮虞卿催

金華



玉葉集

ふくへや

ふくへや

月乃

南田川

いやはや

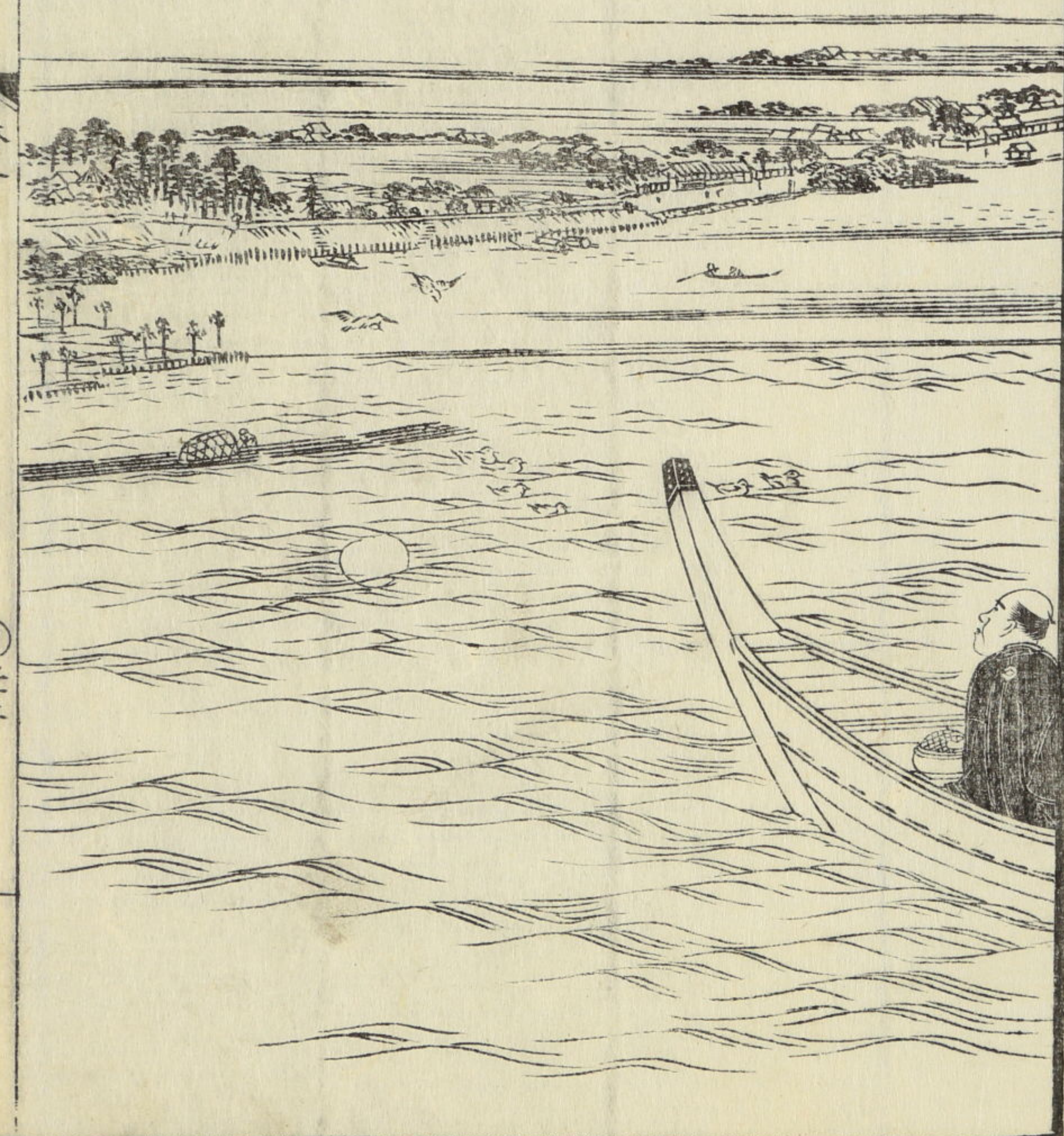
友と

ん

うわさ

き

後二条



東都物語

卷三

三十一

武藏野駒牽古事



後撰集
秋務の
立身
約と
むく
の
君や
ふひ
れ
忠房





九月十一日より廿日
迄は神明宮祭禮

新葉集

年中の節

百首の歌

中二秋の

酒とて

をよませ

いふ

一歌

その

名を

所製

○今日日輪言ふ物あり
同本
安泰も

十二日○日蓮上人御影の儀

文永八年九月十二日上人相明の影の儀に就て
一日より五日の徒胡麻の影を供す昨日今日お祈り
新にも人御影をまつり法より著るなり○牛込橋より
外港より渡り

○芝居見の世界

芝居見の世に又ハ芝居見の世に又ハ芝居見の世に
芝居見の世に又ハ芝居見の世に又ハ芝居見の世に
芝居見の世に又ハ芝居見の世に又ハ芝居見の世に

十日○看月

看月の月宴といふ衣被の儀に就て
看月の月宴といふ衣被の儀に就て
看月の月宴といふ衣被の儀に就て

○源六間堀神明宮祭

源六間堀神明宮祭の儀に就て
源六間堀神明宮祭の儀に就て
源六間堀神明宮祭の儀に就て

○言田本松の御影の儀

言田本松の御影の儀に就て
言田本松の御影の儀に就て
言田本松の御影の儀に就て

十日○神田祭の節目なり

神田祭の節目に就て
神田祭の節目に就て
神田祭の節目に就て

神田祭の節目に就て
神田祭の節目に就て
神田祭の節目に就て
神田祭の節目に就て
神田祭の節目に就て
神田祭の節目に就て
神田祭の節目に就て
神田祭の節目に就て
神田祭の節目に就て
神田祭の節目に就て

自○神田時
神田の國少河より行橋より神田まで約四十里あり。往古ハ南江神田橋
を以テ分ル。其地ハ平野ニシテ、水田多ク、桑畑亦多シ。其地ハ昔年以來、
神田の國少河より行橋より神田まで約四十里あり。往古ハ南江神田橋
を以テ分ル。其地ハ平野ニシテ、水田多ク、桑畑亦多シ。其地ハ昔年以來、

今日往來入留めて櫻を登りしとあるは只少路の柵と結ひ決度よりいふに抵後に出され
柿等を牽せしむるは只此の枝を處あり産子の町敷六十町敷敷之十六番各出一羽り物
小若虫とてそ一牡麋鄙人の目と驚くしむ也一其内例子と云ふもそ出たりは二番の新
二番の猪三番の病人形四番の和布疋新六番の花新八番の関羽周倉人形九番の熊坂
人形十番の信正坊牛若人形十一番の二見浦十二番の素盞鳴鳥等新七番は紐無り釋く
十八番の鴉穂又蝶咲番の新神女之番の大木神女四番の病う思夜生金女七番乃三象
小瓶浪小狐世番の雛子世一番の武内高杯人形世二番の仁田四郎人形世五番のえびす神よ
なりき外にも毎年出するものあり也一ハ何れも半車まで曳取りその外ふをとり遠りの
曳物敷多し

太鼓 御幣 掛 社家 湯馬 社馬 社家 湯馬 長柄 小旗 子本

一番 大幡馬町 二番 南幡馬町 御雇祭 大津木伐木町 丁分 赤左馬町 新着町 三番 津田旗

蘇町一丁目 四番 岡二丁目 五番 堀町 六番 色物石町 七番 湊田町二丁目 八番 岡二丁目 九番 津

荏町 十番 三河町 臺丁 同 十一番 芳嶋町 同 湯嶋町 同 今沢町 ○ 林桑一ノ宮 引 張柄倉

社家語焉 太敷 獅子頭二 田楽 社家語焉 市井 社家語焉 仲富 社家語焉 市太刀

社家驢馬 街巷刀 社家驢馬 長柄鎗 伶人面 鼻高 以幣 素袍兒 大柏子 什雲 什凡

社教法第三〇二の客列
給人面幣
大帽子
社教法第三〇二の客列
給人面幣
大帽子
社教法第三〇二の客列
給人面幣
大帽子

社家
以上
十二番
農升町
十三番
惣本町
十四番
同本町

十五番 什久呂町亭丁同 同 同 二丁同 十六番 辰三丁同 四丁同 同 家老町十七番 久右衛門町亭丁同

二丁辰
八番
高田町
同十九番
同二丁目
北番
永富町
同丁分
北番
照大工町
北番
三丁
堀江町

[illegible]

元字轉用
凡九番
榜之二冊
州番
維子冊
州番
云河冊
寧同飛二番
何作一四慶子冊
州三番
答以冊示

宇同 州四番 於 州五番 石壁 州六番 松田町。外臺二基あり古來、此處の城なり。

[illegible]

此の中より土の質、力、及び、
 中より表、行、建、其の材、打、土、に、
 堅、柔、の、質、及、に、助、養、

都門へ入るのち、この内一系おき、貞田町、碓町より通へ、より同通、黄町、黄大工町、三向町、三丁、同、

あり、その同丁目の河原田智恵屋古来ハクんど
 奉養歌を教わきて、獲得院を

和別を以てより坂田町魚坂^{イナ}を登り木坂を登り田安町より市曲論内（今竹橋町門

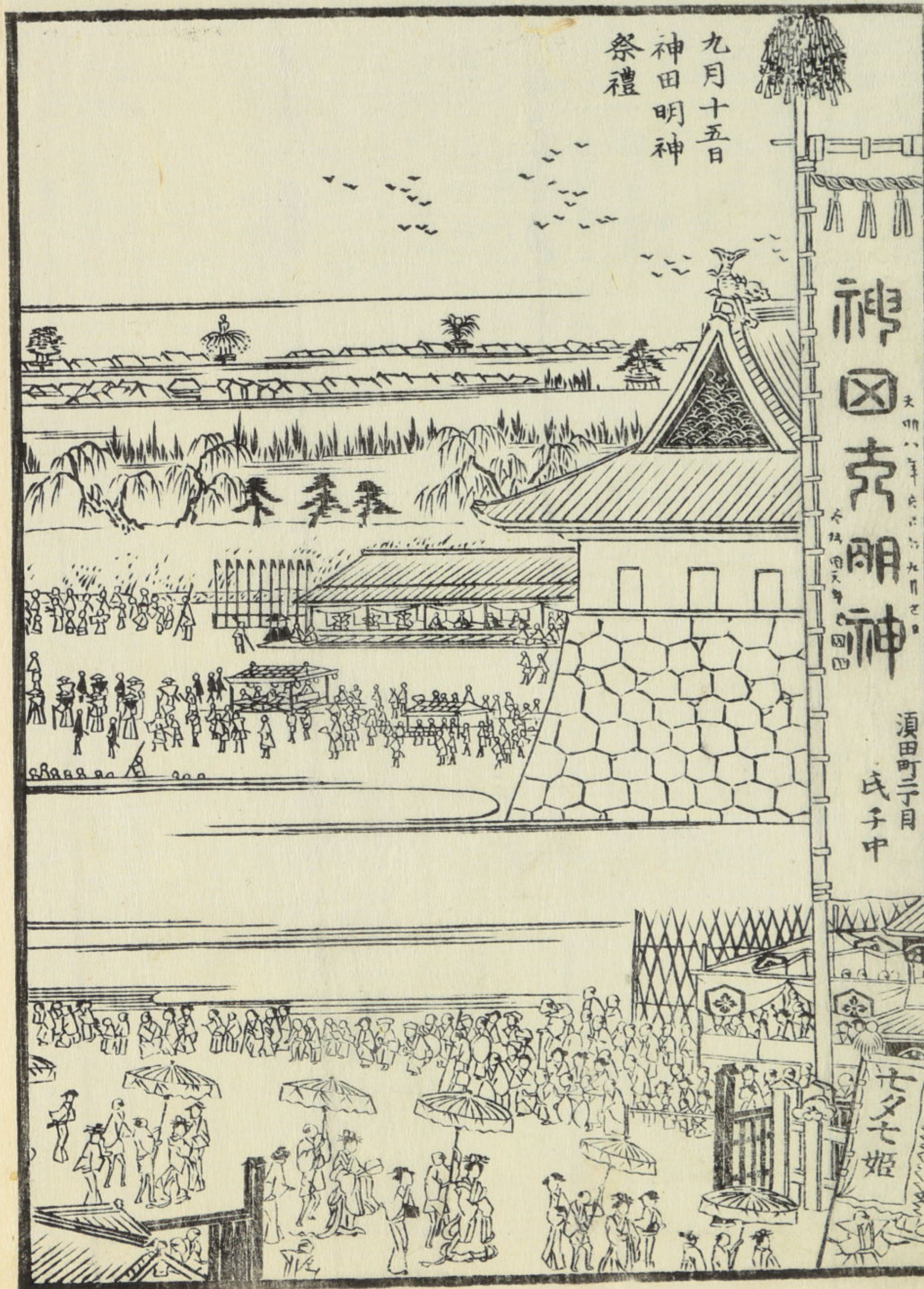
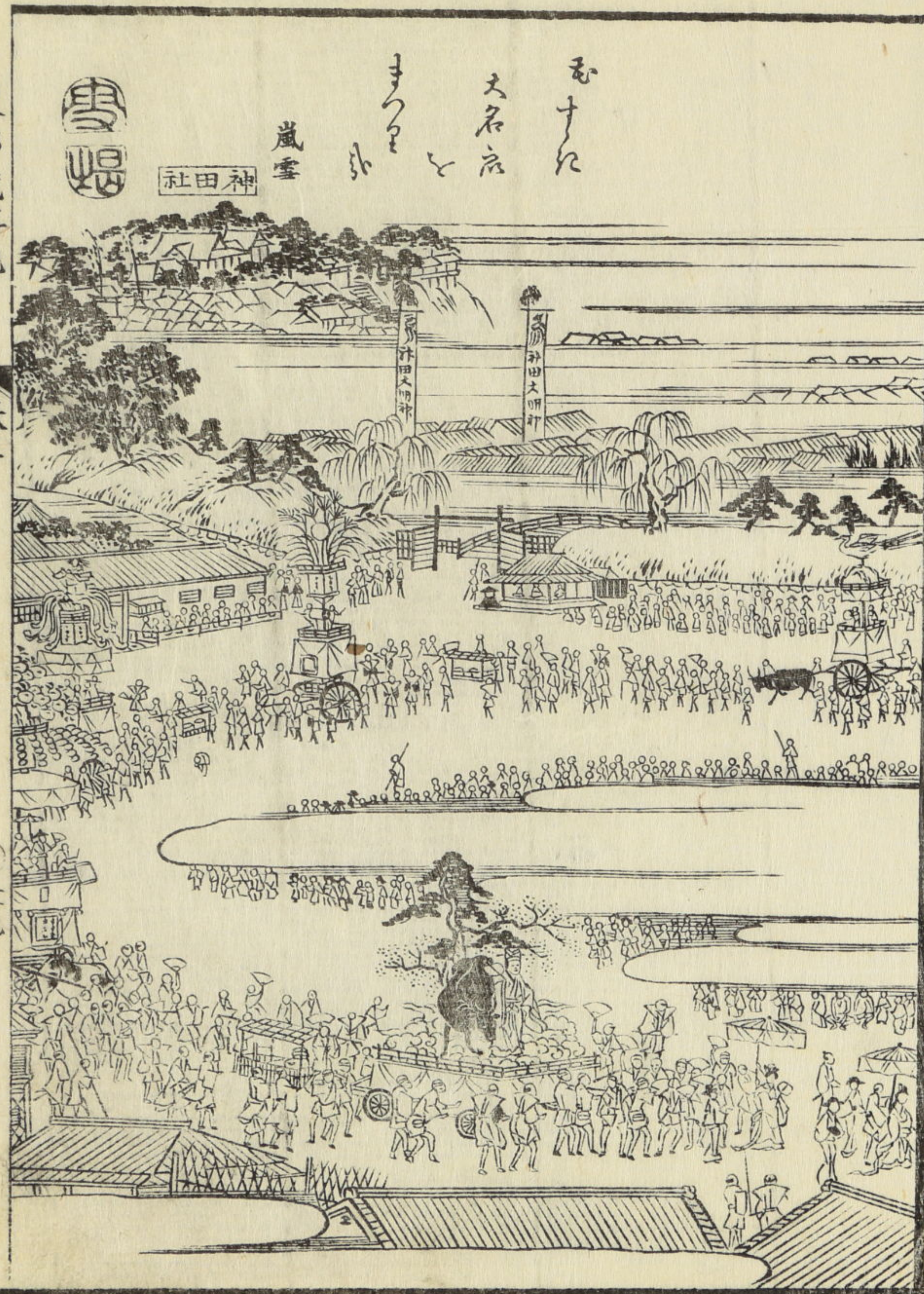
と云ふ者も、彼等へ入る奉幣あり、尚ほの四者あり、必急ありまゝなり

[illegible]

弘一居士遺教を伴雲のふり列と接一本町毎より石町法施町大佛寺町堀田町小綱町小糸町

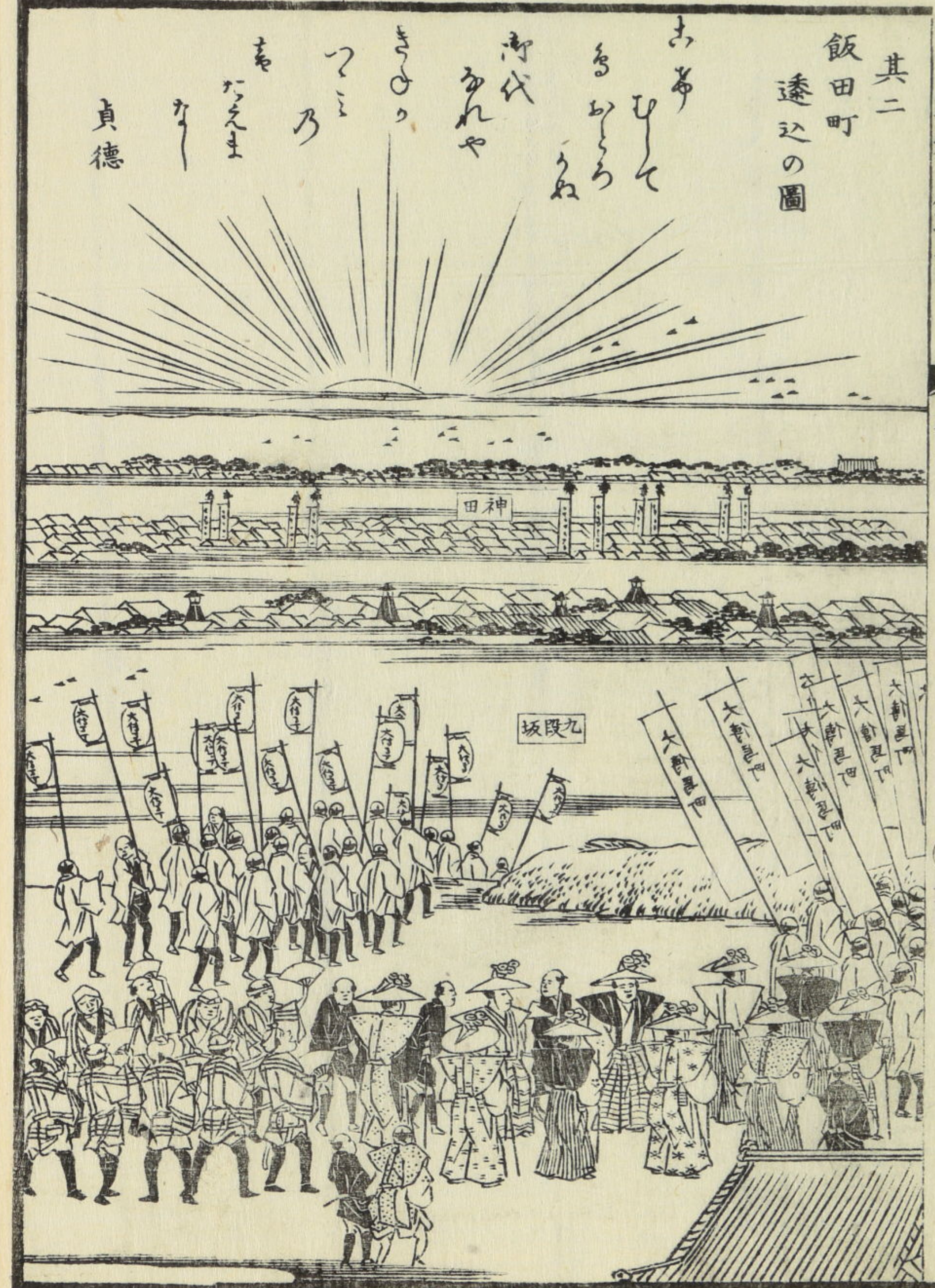
河原より新戸越町河勢町河原町新戸越町小田原町河原より日本橋と渡り至る目より

京橋通より水法東の河原茶屋町本村茶屋町七丁目より寺子町河原まで二日市より同本村

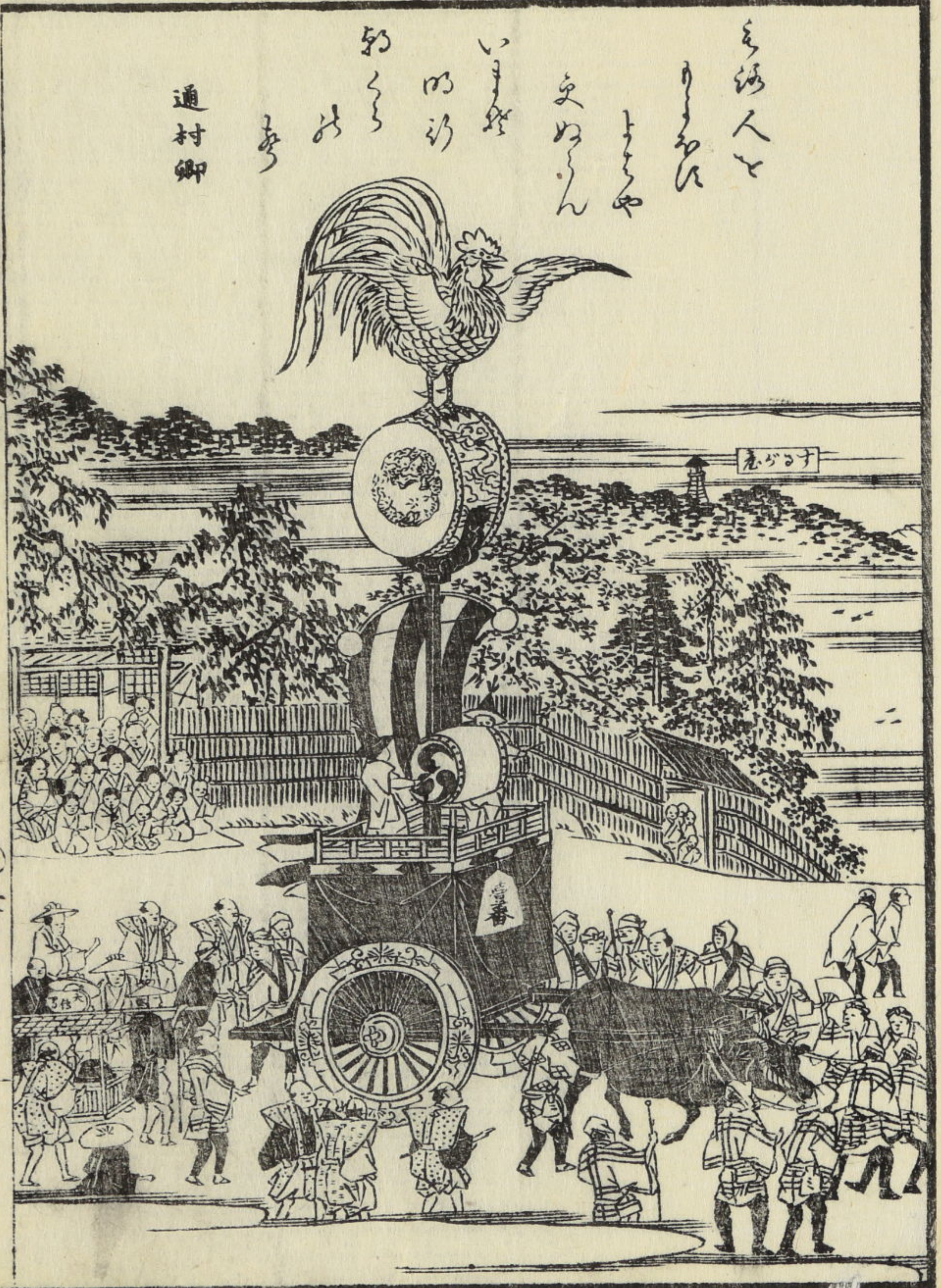


其二
飯田町
遠近の圖

おあ
ひて
うね
あれや
きり
つ
乃
か
かえま
貞徳



おあ
ひて
うね
あれや
きり
つ
乃
か
かえま
貞徳



吾すき大名店より外嵐雪一斗も

平岩仙桂作

且求全聞說親王蹟嚴靈經幾年

集ひゝ同ゝ比より絶ゝ

おまをいふは、無きと云ふ年、少くも、享保より、維新まで、

隔年祭に乃休とてなり産子の町くらげ祭と号して新地灯

中 人形を飾る

別當最律も廿卯己未酉亥年隔年小以ハ牛暦の越鑿也

渡りたる間一年より
 渡河の事あり出
 一焼物、安永八年より
 出たるあり

同
六番
南本
元町
本
尾上
町
七番
同
八番
同
九番
同
外
十番
同

小本表町 十四番 中、八竹丁 十五番 同竹町 十六番 本元町 同八軒町 十七番 同系庭町 十八番 同尾町

カラスギ
青紅の文が木葉上小松林に上之十一因之松林

（一）木料

○子作小相系孔魯同不

○子任掃石爲渠水
川明神怒澄時今孰
乃

○牛 20 餘 七 八 十 九

十七日○涉榮新塢松平福福寺御宮參詣

○小日向水照氷川明升急れ神楽阿り
○谷中妙福寺日親上人像開帳

十八日○雜司谷鬼子母神堂萬卷陀羅尼修り

○本不出也。本佛与鬼子母种内相叶。今日。南寺。同。蓮上人。會。武。修。所。

○荻野田川小糸本上妙与鬼子母并糸開帳○下谷腕明与赤城阿并糸

○牛込以築岡町南義院每天索重丑卯己未酉年隔年九少仍入

○卜谷通躬町秋氣懽現祭
○葉鴨本村十羅剎女祭

○今程より大悔の病
本澤より七面官家
修得見修得阿り

十九日 ○牛込赤城明神祭
アカキ
 別當等覺も子寅辰午申戌の年隔年より物とせし
 せうをいふとあはれをいふと出ず十八日十九日を例年

休急河り 道社麁子の内衆れの時振町又大なる獅子頭二とうるる
 あり 寺町を
 国羽の人程とうるる毎奉うるる衆れ番能たの如く

一番牛込横町 二番同肴町 同袋町 三番同本郷 門前 四番同厚町
同安永町 五番同末町 六番同山崎 七番同拂方町 八番同山田 九番同天
井町 十番同中里町 同中里村町 十一番同板町 十三番同英天町 十四番同伏見堀町 十五番同中野田

町十六十八番 同系町一丁目二丁目三丁目十九番 同改代町 北番 同築地序町 北一番 同六軒町 北二番

同馬場先序町北四番
同天徳院門前北五番
同改代町分北六番
同善寛寺門前北七番

女八丁あり。林妻二基列尚宗実仍列睦を。道筋ハ林桑坂のよき町と練込町と江ノ島より

高妻より南へ津島坂をり瀬子坂と之をり久しかり中ノ原中ノ原北ノ新町高崎光戸町

より東へ武家地多し町東端古川町辺段代町築地町より南社の前又西へ町へ此より

少子福田町多田町成前炭山麓根来町京町久久保東町同桂古前より金剛坂より

市谷八まん宮前左内坂或森地多坊子深々寺更杉井り山伏町右入山細々町山麓士町内戸町

排方町岡不龜南とより元の細工町よりいへんす町様も町より五馬町へ此迄のありと

終る以上ありまを記す

○涉彙尤不韋孰古柏系昭什衆圖帳子卷陀羅尼修仍

○白子之祐坂水川勢孔別處報恩寺 ○大宮八幡宮神樂

○本村大崎村小色猪智院松蔭弘○浅草新町白石権現寺

○北山宮角力無沙汰迄九月十九日迄々室陽の佳きと有り

○七面宮祭終
押上最教寺
源川淨心寺
高田亮朝院
小卷陀羅

[illegible]

日暮里延命院
十八日の種子巻附羅尼
魚書院去りの
大窪法善寺
本尊麻廬十三日上人
八日付大角至免主

近來新法
カサメ
公府より新法
又の意の意の

芝金松岡珠古
○羽田辭賊天忍乙
要領と云ふは、俗僧の集まり
なり。尚今、三寶院

今日聖天町同業町金谷町新屋町等

日○乳山聖天宮祭禮
の町へ竹藪を履き奉りて群衆
安永三年

歩景荒法堂抄殿聖天宮祭○
 其外而聖天文部江あり
 平祭あり

一番 吉山お祭町同 小原町二番 南原町三番 久保町 然世横町 四番 久保町表町

五番 久保町町六番 八人町 七十九番 油川町 十三番 若松町六町町 十三番 小大町以上十一町あり

○下谷子米稻新祭 新泉と持花中 幟挑灯不出 後りのありてふれり

○麻布新土井明宮祭 別当長泉 昨今概り ○角替村十二下権現祭 本々村 新泉と持

○江法大師系 河傍 新井その外三月の如し ○若中 桑妙因も合式ふ老たらに

○二日 源川接江妙妻と稻新祭 子巻陀羅尼修り閑帳あり 神無と社参へ出

○谷中 大田も 桑妙因 子巻陀羅尼修り閑帳あり 神無と社参へ出

○子位 大橋向橋戸町法衣と稻新祭 ○麻布 本々 茅洗坂中 昨日稻新祭

○今日より 十月廿八日まで 法衣と稻新祭 八町町 本法衣と稻新祭 切子と出 十二月

○明日より 月と出 月と出 月と出 月と出 月と出 月と出 月と出 月と出 月と出 月と出

○あり 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭

○法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭

○法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭

○法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭

○法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭

○法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭

○法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭

○法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭

○法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭

○法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭

○法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭

○法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭

○法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭

○法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭

○法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭 〇法衣と稻新祭

卷之六

勁弓開帳

子卷陀羅

五

劉
寶泉古

菊 ○ 立冬より
以日増す

奇鴻村百花園

辺又此の名称ありて夏曰都々小出

